

今週の為替相場見通し(2021年10月25日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		113.42 ~ 114.69	113.51	112.00 ~ 114.70
ユーロ	(ドル)		1.1572 ~ 1.1670	1.1646	1.1550 ~ 1.1750
(1ユーロ=)	(円)		131.94 ~ 133.48	132.17	130.50 ~ 134.50
英ポンド	(ドル)		1.3710 ~ 1.3834	1.3756	1.3665 ~ 1.3815
(1英ポンド=)	(円)	*	155.93 ~ 158.22	156.12	154.75 ~ 156.75
豪ドル	(ドル)		0.7379 ~ 0.7546	0.7470	0.7400 ~ 0.7550
(1豪ドル=)	(円)	*	84.28 ~ 86.26	84.76	84.00 ~ 86.30

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

金融市場部 グローバルFIチーム 木村 優太

(1)今週の予想レンジ: 112.00 ~ 114.70 円

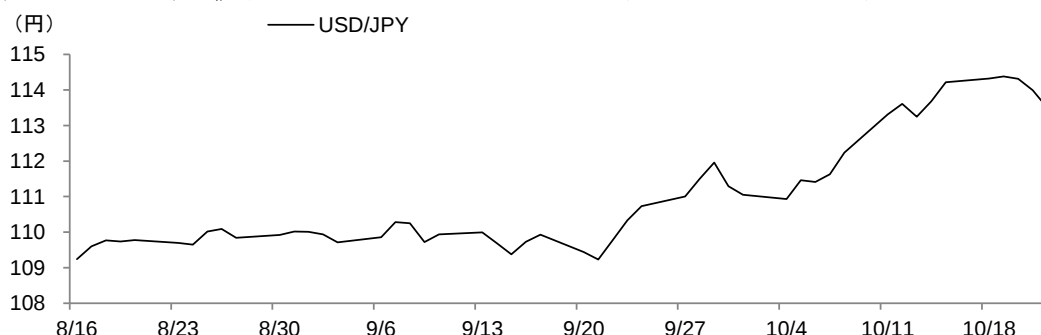
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円は週半ばに年初来高値を更新し、その後下落する展開。週初18日は114.34円でオープン。アジア株で利益確定売りの流れとなり、また発表された中国の経済指標が軟調な結果であったことから上値の重い推移となるも、コモディティ価格の上昇がサポート要因となり114円台前半でのみ合いの展開となった。19日は米長期金利の下落を受け連れ安の展開となり、114円を割って一時113.88円まで下落。ただ、その後米金利が再度上昇したことにより114円台半ばまで回復した。20日は仲値にかけて実需のドル買いが優勢となり、114.69円をつけ年初来高値を更新。ただし、17年11月の高値である114.73円を抜けきれずに失速し、米長期金利の下落に連れて114.08円まで下落し、その後は114円台前半で推移。21日は中国不動産企業の破綻懸念を発端としたリスクオフの流れに円買いが優勢となり、一時114円を割り込む展開に。海外時間に発表された米10月フィラデルフィア連銀景況指数が軟調な結果であったことから113.65円まで下落するも、米株が堅調に推移したことで114円付近まで値を戻す。22日は日経平均の持ち直しに支えられ一時114.20円まで上昇するもその後は米金利の下落に連れられて113円台後半まで下落。海外時間にパウエルFRB議長会見にて早期利上げを否定したことで長期金利はさらに下落し、週安値の113.42円まで下落し、113.51円で越週となった。

今週のドル/円は下値を試す展開を予想。米金利はFRBの金融緩和からの脱却の動きに加え、足元のコモディティ価格高騰等の原材料価格の上昇によるインフレ懸念を受けて上昇を続けてきた。先週も19日(火)にFRBのウォラー理事が早期利上げを支持したことがドル/円の年高値更新を後押ししたと思われるが、22日(金)のパウエル議長の会見はこうした流れに牽制を行った形となった。足元の金利の上昇は急速なペースで進んでいたため、今週は一旦調整局面となり、ドル/円もそれにつられて上値が重くなることが予想される。また中国不動産企業の破綻懸念も再発したことで株式にも調整が入る可能性があり、クロス/円の巻き戻しで円買いが進むことも想定しうる。ただし、米国の金融正常化や原材料高によるインフレ懸念は継続することから、下値を試した後は再び円売りが徐々に進むことにも警戒が必要だ。今週の主要な経済指標の発表は28日(木)に米国7~9月期GDP(速報)を控えている。

(3)先週までの相場の推移

先週(10/18~10/22)の値動き: 安値 113.42 円 高値 114.69 円 終値 113.51 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

市場営業部 為替営業第二チーム 小林 元子

(1) 今週の予想レンジ: 1.1550 ~ 1.1750 130.50 ~ 134.50 円

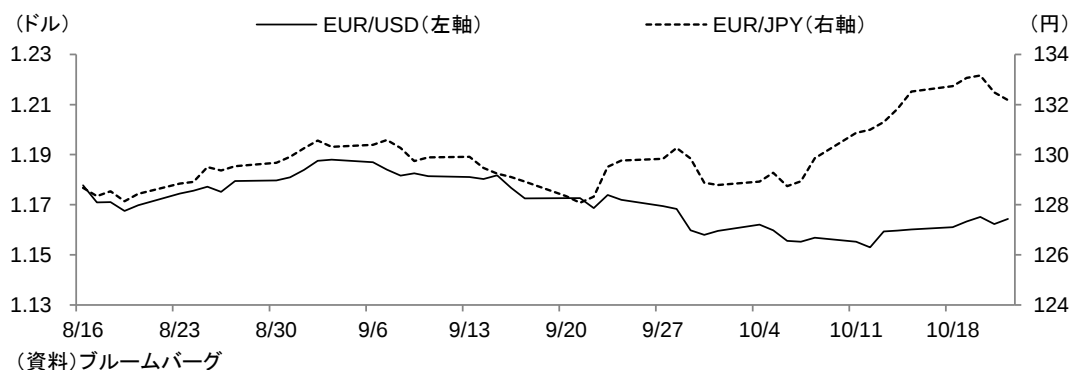
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場は堅調に推移した。週初18日、1.16付近でオープンしたユーロ/ドルは中国経済指標の不冴えない結果を受けたリスク回避の動きや米金利上昇が重しとなり一時週安値の1.1572まで下落した。その後は米9月鉱工業生産が市場予想を下回ると、1.16台前半まで回復した。19日、ユーロ/ドルは米金利低下に伴うドル売り圧力や株式市場の堅調推移を背景に一時週高値の1.1670まで上昇したが、その後米金利の持ち直しを受けて1.16台前半まで再び値を下げた。20日、1.16台前半で推移していたユーロ/ドルは米金利低下に伴うドル売り圧力や世界的な株高を背景としたリスク選好の動きにサポートされ1.16台半ばまで反発し、その後も堅調に推移した。21日、ユーロ/ドルは株安を背景としたリスク回避の動きに軟調地合いとなり1.16台前半を推移した。週末22日は、1.16台前半でスタートし、ドル売りの流れからユーロが上昇する展開。ロンドンフィックスでドル売りが出ると思惑に一時1.1656まで上昇するが、これを通過すると一気に売りが持ち込まれ1.1621まで反落。午後は米長期金利低下を受けたドル売りが継続し、1.1646まで戻して越週した。

今週のユーロ相場は上値重い展開を予想する。10月12日(火)に約1年3ヶ月ぶりの安値を付けた後、先週はユーロ圏の経済指標の堅調な結果や、米早期利上げ観測などを背景にユーロがやや買戻される展開となった。今週は10月28日(木)にECB政策理事会を控えており、足許の緩和政策を継続する見通しとなっている。金融政策の引き締めを期待してのユーロ買いは難しいと考えられる。また、要人発言もハト派な内容が目立っており、ECB政策理事会後にラガルトECB総裁の発言内容によってはユーロ売りを誘発する可能性あり、留意したい。今週の重要指標の発表は25日(月)独10月IFO景況感指数、27日(水)独10月GfK消費者信頼感、28日(木)独10月失業者数、ユーロ圏10月消費者信頼感、ECB主要政策金利、29日(金)独G7~9月期GDP、ユーロ圏10月CPI、ユーロ圏7~9月期GDPの発表が予定されている。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(10/18~10/22)の値動き: (対ドル) 安値 1.1572 高値 1.1670 終値 1.1646
(対円) 安値 131.94 高値 133.48 終値 132.17



3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1)今週の予想レンジ: 1.3665 ~ 1.3815 154.75 ~ 156.75 円

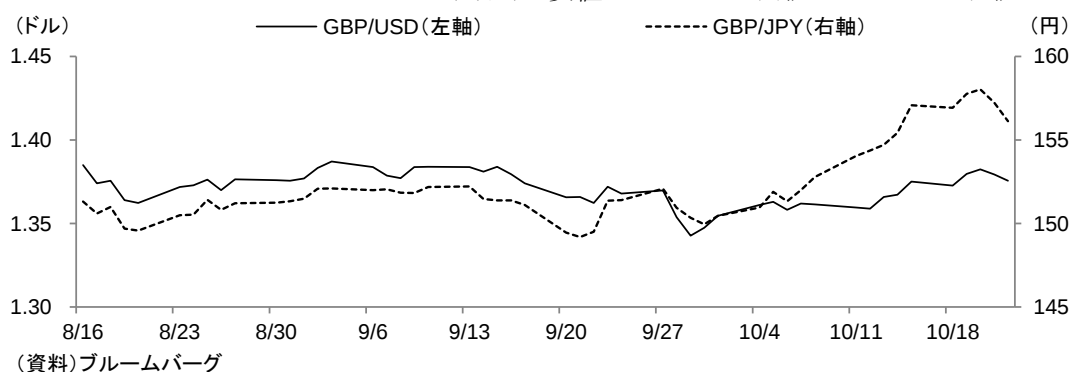
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、対ドルで、上昇後、反落、週を振り返って概ね横ばい。対ユーロでは方向感に乏しい細かい上下動を繰り返し、結局、水準を小幅切り下げ。対円でも細かい上下動を繰り返したが、22日の円全面高で、最終的に明確に水準を切り下げた。週明け18日、頭打ちから、低下基調にあった米長期金利が、19日、もう一段低下すると、ドルは全面安に。ポンドも対ドルで明確に水準を切り上げた他、おそらくは漠然とした英中銀早期利上げ期待を背景に、対円、対ユーロでも小幅に上昇した。しかし、同日中に米長期金利が再び明確な上昇に転じたことでドルが反発、前後してポンド上昇も失速した。その後、米長期金利は週引け直前まで高止まりしたものの、材料としての注目が薄れてしまったのか、ドルを押し上げる力は弱かった。週央以降、ポンドは方向感に乏しい小動きに終始したが、週後半にかけての下押しは、①新型コロナウイルス感染者数の急増を受け、20日、ジャビド英保健相が5週間ぶりにコロナ記者会見を開き、一定の行動制限措置を再導入する可能性(プランB)に言及したこと ②英中銀金融政策委員会のビル委員(チーフエコノミスト)が、21日、「(足下インフレの一過性に鑑みて)引き締めが必要はない」と、早期利上げに消極的な発言をしたこと ③22日、発表された英9月小売売上が市場予想を明確に下振れて減速したこと ④EU関係筋からの発言として、英国との関係が(英国が北アイルランド議定書16条発動=同議定書の一方的な棚上げに踏み切るなどして)更に悪化した場合、英/EUの通商合意の破棄を検討するとの観測が聞こえてきたことの4点が考えられた。ポンドは週引けに掛け全面軟調に振れたが、悪材料が4つも重なった割には小動き。前後して円が全面高に振れたことで、ポンド/円の下げだけはひと際目を引いた。

今週の英ポンド相場は、軟調を予想。英短期金利市場は、引き続き11月4日(木)の英中銀金融政策委員会における利上げ(0.10→0.25%)を織り込んだままだが、上述、ビル委員の他、テンレイロ委員(14日)、マン委員(14日)などからも、早期利上げに慎重と読める発言は相次いで聞かれている。9日(土)に「(インフレが)恒久的に根付くことを防ぐことが必要だ」と述べ、早期利上げを示唆したばかりのペイリー総裁ですら、17日(日)には、早期利上げの必要を重ねて示唆する一方、「だが、勿論それは金融政策委員会として判断することだ」と、些か腰が引けたようにも読める発言をしていた。その上、英景気の先行きに関して、燃料価格高騰、供給障害などの阻害要因に加え、上述①、③、④などの不透明要因が顕在化している局面で、英中銀が利上げを急ぐことの功罪は、ペイリー総裁が言うほど単純には割り切れないのではないかと。確かに、利上げ開始が早ければ早いほど、最終的な利上げ幅は小さくて済む可能性は高くなるだろう。一方で、公には決して口にしないもののi)コロナ対策で莫大な財政赤字を積み上げた英政府が、(過去の借金軽減のために)ある程度のインフレを期待しているのは事実だろうし、またii)ロシアやポーランドなどのような新興国との比較で、英消費者の期待インフレ率が抑制を欠いた急上昇に転じる可能性は低いし、更にiii)ハンガリーやトルコのように、自国通貨安が(輸入)物価を押し上げるような悪循環に陥るリスクもポンドには見えていない。ひと言でいうなら、それは、英中銀が、米連銀や欧州中銀側の中銀なのか、ハンガリー国立銀やロシア中銀側の中銀なのかという判断になるのではないかと。CPIが前年比+5%を優に超えている米での利上げ開始が22年末か23年初かと議論され、英同様同+3%台にあるユーロ圏から、利上げの「り」の字も聞こえてこない現状で、英中銀だけが利上げを急いでいるように見える現状が、どうしても腹落ちしない。また、27日(水)には、英来年度予算が発表されるが、スナク財務相は、財政引き締めへの方向転換を明確にしている。財政政策と金融政策が同時に引き締めに舵を切れるほど、今の英経済の状況が堅固であるとも思えない。

(3)先週末までの相場の推移

先週(10/18~10/22)の値動き: (対ドル) 安値 1.3710 高値 1.3834 終値 1.3756
(対円) 安値 155.93 高値 158.22 終値 156.12



4. 豪ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 上遠野 暁洋

(1) 今週の予想レンジ: 0.7400 ~ 0.7550 84.00 ~ 86.30 円

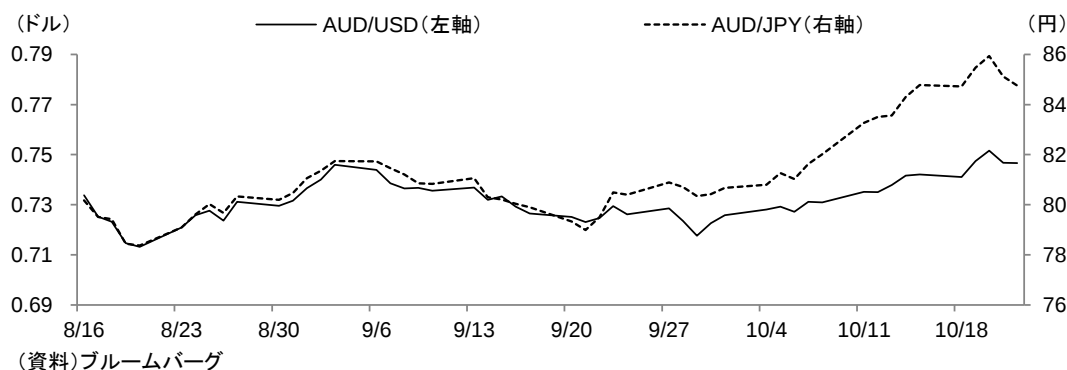
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドルは上昇するも週末にかけ下落。週初18日は0.7420レベルで取引開始後、NZ7～9月期CPIが前期比+2.2%と約11年ぶりの高い伸びを記録したことを受けてNZドルが約1ヶ月ぶり高値に上昇する動きに豪ドルも連れ高となり、0.7440手前まで上昇するも、その後中国7～9月期GDPが冴えない結果となったことで、豪ドルも売り優勢となり0.7380まで下落。ただし豪3年国債先物がストップを巻き込みながら下落し豪短期金利が上昇する動きに0.7410レベルまで戻す展開。19日、発表されたRBA議事要旨では2024年までは利上げを想定していないことが示され豪短期金利の上昇はやや減速するも株高を背景に豪ドル買いの流れは継続し、一時0.7485と9月上旬以来の高値をつけた。20日も株式市場の堅調推移を受けたリスクオンムードの中、0.75をあっさり上抜け0.7520手前まで上昇。依然高水準で推移する豪短期金利を眺めた底堅い展開を継続。21日はRBAによるYCC買い入れが発表されなかったことを受け豪短期金利が上昇する動きに豪ドル買いが加速し、7月以来高値一時0.7546まで上昇。しかしその後は中国大手ディベロッパー企業の傘下株式売却交渉頓挫の報道を受けたリスクオフ傾斜、また米国の暖冬見通しを背景とした原油相場下落を眺め上値は重く0.7470レベルまで戻す内容。22日は、RBAが3年国債利回りを0.1%前後に抑えるための買入を行うと発表し豪短期金利がやや低下し、0.74台半ばまで下落するも、その後は原油相場の下げ一服や株式市場の底堅さを確認しつつ買戻しが優勢となり0.7510レベルを回復。もっとも、米パウエルFRB議長がサプライチェーンの問題と供給不足について「想定以上に続く可能性」を示唆し米株の軟調推移に豪ドルも重く推移し、0.7470で越週。

今週の豪ドルは底堅い推移を予想。コロナワクチン接種の進展を受けて段階的な規制緩和への期待感が高まっている他、足元原油をはじめとした資源価格の上昇、貿易黒字の拡大などが引き続き豪ドルサポートとなろう。なお、先週末RBAは今年2月以来となる国債買い入れ(2024年4月償還債)を実施すると発表し豪短期金利の上昇に対する警鐘をならしたものの、目下経済回復への根強い期待感から豪金利は依然高水準での推移となっており、先週末利上げに対して慎重姿勢を崩さず再び重く推移する米金利との乖離も豪ドル買いとして意識されよう。もっとも、リスクシナリオとして、中国の不動産ディベロッパー企業の債務履行問題へのヘッドライン次第で金融不安が再燃しリスクオフ傾斜する展開には警戒しておきたいところ。今週の主な経済指標としては、27日(水)豪7～9月期CPI、28日(木)豪輸入/輸出物価指数、29日(金)豪9月小売売上高などを予定。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(10/18～10/22)の値動き: (対ドル) 安値 0.7379 高値 0.7546 終値 0.7470
(対円) 安値 84.28 高値 86.26 終値 84.76



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。